



携推進室長、齊賀大昌農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室長よりご来賓のご挨拶をいただいた。

特別講演では、北見工業大学工学部榊井文人教授から、「カーリング世界一を目指すトライボロジー研究と産学連携」との演題で北見工業大学を中心とした、冬季スポーツ研究の大学戦略と地域への貢献について講演を頂いた。また、株式会社北都銀行齊藤永吉取締役会長から、「北都銀行バドミントン部と秋田大学との産学連携」との演題で、株式会社北都銀行が実行するバドミントン部のオリンピックへの挑戦および秋田大学とスポーツをキーワードとした産学連携に関するご講演を頂いた。

講演に引き続き、「社会実装を意識したこれからの産学連携のありかたとは」と題するシンポジウムが行われ、パネリストとして、秋田ノーザンハピネッツ株式会社水野勇気代表取締役社長、株式会社かおる堂藤井明代表取締役社長、JR 東日本株式会社秋田支社田口義則地域活性化推進室長、北見工業大学工学部榊井文人教授、秋田大学教育文化学部臼木智昭准教授、コーディネーターとして秋田大学産学連携推進機構島田洋一機構長が登壇し、地方都市とスポーツの関係性や運動という目線からの歴史ある和菓子店と機能改善食など様々な見地から産学連携の成果を社会実装するプロセスについて各々の立場から文理融合の議論を行った。

一般講演とオーガナイズドセッションは全部で25セッション行われた。これらも産学連携史上初めてのZoomによる口頭発表開催として発表動画を用いた口頭発表と予稿の原稿を用い詳細を口頭で説明する紙上使用発表を複合して開催する形式とした。初めての開催形式にもかかわらず、座長、発表者、聴講者の協力を持ってスムーズに進行する事ができたことには特段の感謝を申し上げたい。特筆すべき事項としては、産学連携プロジェクトが7と、昨年度の奈良大会から引き続き、知の社会実装が活発であることがあげられる。これは産学連携が実学の一つとして全国各地で期待され、大学の知が社会実装されている証左であると理解できる。また、開催地の秋田県の事例発表も多数行われた。今回の大会を契機として、将来にむけた秋田県内の産学連携活動が活発になることが期待される。

本年度の秋田大会は、新型コロナウイルスの影響を受け、当初の開催から幾度となく方針を変換したことで、会員の皆様の混乱を招いたことは痛恨の極みであり、この場を借りて陳謝申し上げる。それにもかかわらず、盛況のうちに開催にこぎ着けられたことはひとえに共催、後援、協賛を快諾頂いた皆様。座長をお引き受け下さった皆様。ご発表者の皆様。聴講者の皆様のご協力によるものと認識している。この場を借りて改めて大会事務局一同御礼を申し上げます。そして、このような対応を行っても開催できたことは、これまでの産学連

携学会大会の流れを作り上げてきた先人のお力によるものであり、大学経営の一翼の担う組織とそしてその重要性が認知されているからであると考え。深く敬意を表したい。本学会のますますの繁栄と継続を祈念し、第18回秋田大会の開催報告に変えさせて頂く。

産学連携学会第18回大会実行委員会

実行委員長：秋田大学理事・副学長 倉林徹

以上